

0 はじめに

朝の冷え込みはまだ厳しいですが、なんとなく心もウキウキする、春らしい陽気になってきました。校長室から見える中庭の雪も教室側に少し残っているだけになり、校長室側は土筆が元気に伸び始めています。今年の冬は、終わってみれば少雪だったといえるようです。それでも12月と1月にそれぞれ1回ずつ記録的な大雪の日がありました。覚えているでしょうか。特に12月は、柏崎をはじめとして長岡周辺でも国道が麻痺し、車の中に閉じ込められた人が多くいて、私もその一人でした。12月19日、学校を臨時休校にした日です。

その日、私は勤務を終えて5時過ぎに学校を出ましたが、バイパスに乗ってすぐに車が渋滞で進まなくなりました。30分に数十メートル進む程度。幸い、雪の降り方は緩く、車のマフラーが雪で覆われ窒息するという状況ではなかったので少しは安心できましたが、暗い中ずっと狭い空間に1人であるというのはやはり心細く感じました。そんな中です。冷え込みが厳しくなってきた夜中の11時頃、車の前方から2人ほど歩いてくる姿が見えました。動かない車を一台一台回って声をかけているようです。私の車の順番になりました。助手席側の窓を開けます。「長岡市です。お疲れ様です。水とクッキーをお届けにきました。」と言葉をかけられ、こちらも「ありがとうございます。夜遅くに、ご苦労様です」とお礼の言葉を返しました。6時間以上車の中に一人でいて心細くなっていた私にとって、この上ない温かい言葉と食べ物でした。心細くなる時というのは、いろいろな理由や原因で結構あるものだと思います。クラスや部活動、それ以外の時もありますが、皆さんの周りで、何か悩んでいたたり、困っていたり、心細く感じていたり、気持ちが沈んでいたたりする人を見かけることはないですか。もし気が付いたら、思い切って声をかけて上げてください。ほん一言でも、声をかけられた人は、元気づけられ、勇気づけられることが多いです。声をかける勇気と優しさを持ってください。

話は戻りますが、結局、立川病院の脇で夜を明かし、家に着いたのはお昼前、いつもなら1時間で帰るところ、17時間もかかってしまいました。今思えば、学校を出る前にもう少し状況を把握し、ホテルに泊まるなど、また、車中泊にしても別のところに止めるなど方法はあったように思います。事前調査の大切さを思い知った一晩でした。

1 1年の振り返り

今年度も、新型コロナウイルスの感染が猛威を振るいました。これまで、県内で感染した人は45万人を超えました。校内では、マスクの着用、教室の換気、黙食、歯磨き時の会話の自粛といった基本的な感染症対策に取り組んでもらいましたが、ウイルスの感染力が増したことで、長岡高校でも7月から感染が広がり250人を超える生徒が感染しました。幸い、3月に入って感染は落ち着いていますが、油断は禁物です。

感染の拡大は1年を通して皆さんの学校生活に影響を与えましたが、授業に関しては、全員に配布したタブレットが活躍しました。授業や課題研究の発表で活用することはもち

ろん、学校の連絡用にも、また、感染等で登校できないときのリモート授業などにも使われました。デジタルネイティブと言われる皆さんの世代は、こういったICT機器にはなれているように思います。これからも、よりよい活用の工夫を考えていきましょう。学校行事についても、7月の新潟県SSH生徒研究発表会を直前になって中止したことは残念でしたが、それ以外は、前年度と比べ通常により近づけた形で実施できました。2月には、昨年度実施できなかったスキー授業もありましたね。

さて、皆さんにとってこの1年はどんな1年だったのでしょうか。皆さん1人1人、力を入れたこと、熱中したこと、時間をかけたことなどそれぞれ違うわけで、みんなが同じ1年だったとは思いません。充実していたと感じる人もいるでしょう。なんか釈然としない1年だったと感じる人もいるでしょう。もっと頑張れたかなと感じる人もいるでしょう。皆さんはどれに当たるのでしょうか。大きな区切である今日、自分自身のこの1年を振り返ってみてください。そして、これからの1年で自分は何に力を入れて、どう成長したいか考える春休みにしてください。

2 本の紹介 ～「そしてバトンは渡された」～

このところ、忙しさを理由に本を手にする時間が減っている状態ですが、少しずつですが読み進めています。読書の時間というのは私にとって息抜きの時間で、気持ちをリフレッシュさせるのに大切なものになっています。今年に入って読んだ中で印象に残っているのは、瀬尾まいこさんの「そしてバトンは渡された」「図書館の神様」、今村翔吾さんの「てらこや青義堂」、藤野恵美さんの「ハルさん」あたりでしょうか。

今日は瀬尾まいこさんの「そしてバトンは渡された」を紹介します。一昨年、映画にもなったので、知っている人もいるかと思いますが、この物語では、主人公の「優子」に対して、父が三人、母が二人登場します。優子が血のつながりのない親から受ける愛情を素直に受け入れ、まっすぐに育っていく姿が描かれています。また、主人公は優子なのかと疑いたくなるくらいに5人の親がそれぞれ魅力的に描かれています。キーワードとしては、「自由奔放な二人目の母親」「ピアノ」「パティシエ」といったところでしょうか。読んでいて心地よさを感じる一冊でした。春休み中に読む一冊として推薦したいと思います。皆さんにお見せしたこれらの本も是非読んでみてください。また、図書館や書店で「目が合った本」を探すのも楽しいと思います。

以上、今日は、声かけと事前調査の大切さ、この1年を振り返るということ、春休みに本を読もうということをお話ししました。これからの二週間、有意義な、そして充実した春休みにしてください。

以上で私の話を終わります。